

## ～意識調査の結果より～

6月に行っていた意識調査の中に、通級指導から次の質問内容を入れていただいています。また、どのようなヘルプが必要かも答えてもらっています。

- ①授業中、授業内容が分からなくて困っている。
- ②宿題の取り組み方やテスト勉強の仕方が分からなくて困っている。
- ③プリントなどの整理整頓ができなくて困っている
- ④授業中の持ち物や提出物をよく忘れてしまい、困っている
- ⑤ クラスや仲間との関わり方が分からなくて困っている

- ① で当てはまる/どちらかと言えば当てはまると答え、ヘルプが必要と答えた生徒の数は  
 1年生: 57人    2年生: 32人    3年生: 19人
- ② で当てはまる/どちらかと言えば当てはまると答え、ヘルプが必要と答えた生徒の数は  
 1年生: 9人    2年生: 19人    3年生: 16人
- ③ で当てはまる/どちらかと言えば当てはまると答え、ヘルプが必要と答えた生徒の数は  
 1年生: 2人    2年生: 0人    3年生: 2人
- ④ で当てはまる/どちらかと言えば当てはまると答え、ヘルプが必要と答えた生徒の数は  
 1年生: 13人    2年生: 0人    3年生: 0人
- ⑤ で当てはまる/どちらかと言えば当てはまると答え、ヘルプが必要と答えた生徒の数は  
 1年生: 2人    2年生: 5人    3年生: 1人

それぞれ教科は様々ですが、授業内容が分からず、ヘルプを出している生徒が多くいます。対応として、「授業中、お助け先生にヘルプして欲しい」という生徒には支援担当の先生にも協力していただいて、入り込み支援していきたいと考えています。放課後、ヘルプして欲しいという生徒については、担任、学年の先生とも相談させてもらいながら、通級指導でお助け出来たらと考えています。しかし、すべての授業時間入り込みを行うことは不可能ですし、放課後の時間も限られています。各教科の先生方に少し気にかけていただくなどの協力も必要となります。よろしく願います。

## 合理的配慮 と ユニバーサルデザイン

入り込みをしていると、一斉指示を聞き逃して困っている生徒、配られたプリントをどうすればいいかわからない生徒、集中が持続できていない生徒などいろいろな生徒を見つけます。私たちのちょっとした工夫（ユニバーサルデザイン）で、助かる子どもも多くいると思います。学校現場では、合理的配慮について、「診断がある子や支援に在籍している子が対象」「みんなが頑張っているから同じように頑張りたい」「周りの目が気になる」などの意見を聞くことがあります。しかし、合理的配慮は、子どもの数だけあります。やり方、場面、期間もその子その子に合わせた“おあつらえ”の支援です。すでに実践しておられる先生方も多いのですが、学校で出来る工夫を紹介します。

### 【合理的配慮】

- ★低視力の子を前の席にする
- ★板書を書ききれない子の  
タブレット活用
- ★肌の弱い子のラッシュガード着用
- ★宿題や課題の量を減らす/変える
- ★プリントをすぐ貼る/ファイル  
するよう個別に声をかける。

### 【ユニバーサルデザイン】

- ★配布プリントに通し番号をつける
- ★配布プリントに ファイルに閉じる  
ノートに貼る など指示を入れる
- ★大事なことは、掲示する
- ★話を聞く時と、板書を写す時を  
しっかり分ける

ユニバーサルデザインは、あるとみんなが助かる支援で、合理的配慮は、それだけでは不十分な場合に、より個別の調整を行うことです。「さぼり」や「単なるわがまま」との見極めが難しいですが、活動の入り口で困っていないか、そのことが解決出来たら本人は生き生きできるのか、ということがポイントだそうです。私たちが、はっきりと目的意識をもつことも大切だと思います。周囲の目を気遣うあまり、本人に我慢を強いていることもあるかもしれません。

身体的な面は分かりやすいですが、心の面は分かりにくいかもしれません。心の面も身体的な困難さと同じように本人の気持ちに寄り添い、信頼して一緒に考えていきたいと思っています。